



2022年度

看護部教育新聞 冬号



第32号
2023年3月
看護部
教育専従

看護部長便り ~A letter from Ozawatti~

皆さん、こんにちは。今年度も新型コロナが猛威を振るい、院内あちこちで対応に追われました。このコロナも5月8日から感染症分類では第2類から第5類に位置付けされます。だからといってすっかりと気を緩めることはできません。新型コロナは感染力が強く、入院患者さんにとって重症化リスクは高いこと、無症状でも誰かに感染させるリスクは高いことなどの実態に変わりはありません。これからの「withコロナ時代」において、患者さん・仲間・自分を守っていくためにどのように行動するかが1人1人に問われてくるところです。

そんな中、先日久しぶりにラダー研修に出席し（下記のケア実践発表会）、皆さんの患者さんへの関りを聞く機会を得ました。忙しい日々の中でも患者さんにしっかり向き合って支える姿が伝わってきました。日々の経験を振り返り、自分の行動や思考を言語化し、看護・介護の本質について探っていくこと（これを「概念化」といいます）で、皆さんは大きな学びを得て、成長していきます。発表準備は大変だと思いますが、自分の成長を楽しみにこれからも取り組んでくださいネ。看護部長 小澤



春はもうすぐ♡

保有ラダー I (h) 「ケア実践発表会 I」



2月7日（火）「ケア実践報告会 I」にて、看護師11名、介護福祉士5名、計16名のラダー I (h) のみなさんが、受け持ち患者さんへのケアの取り組みについて発表しました。

新型コロナの感染拡大を受けて、12月から延期になっていましたが、見事に、発表をやり遂げることができました。パチパチ。内容は、意思決定支援、退院支援、ACPなど、とても深いテーマで、患者さんやご家族と真摯に向き合ったことがうかがわれる聴きごたえのある事例ばかりでした。



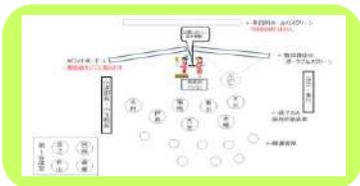
保有ラダー II 「成果発表会 II」



2月10日（金）午前、保有ラダー II 看護師6名と介護福祉士5名の計11名が「成果発表会 II」で発表を行いました。2つの選択研修—論理的思考と事故要因分析のそれぞれを学んだのち、病棟での課題に取り組んだ内容をお話いただきました。

病棟で繰り返し起こっているできごとへの取り組みや日頃の業務上の課題改善を目指したするなど、真剣な思いが伝わってきました。

こちらの研修も新型コロナの影響を受けて、11月から延期になっていましたが、無事開催できて、本当に良かったです。



発表形式は↑上記のような形で、作成した模造紙とパワポの両方を見ることができるようになりました



保有ラダー III・IV 「ケーススタディ合同発表会」

2月10日（金）午後には、保有ラダー IIIとIVの「ケーススタディ合同発表会」が開催されました。看護師4名と介護福祉士2名が複雑な状況にあるケアの受け手に対するケア実践を発表しました。

こちらのラダーでは、右にあるように、事例研究の流れに沿って抄録を作成しています。

コロナ禍のため、さまざまな制限である中でも、リーダーシップを発揮した実践をされており、聞いていて胸が熱くなりました。



ウサギにまつわる小話



一昔前は、学校で餌やりや、小屋の掃除をしていたものです

今年は、ウサギ年ですね。ウサギといえば何を思い浮かべますか？

ちょっと調べてみると、意外とたくさんのキャラクターのモチーフになっていることがわかります。

少し前までは、小学校でウサギやニワトリが飼われているのは自然な光景でしたが、気候条件の過酷さや鳥インフルエンザの懸念などにより、最近はメダカなどの魚類を飼育している学校が増えているとのことでした。時代とともに「教育」も刻々と変化しているんですね。

